

令和4年度 学校評価 自己評価書(前期)

1 学校の重点課題

- 学びを充実させる規範意識の醸成と思考力・判断力・表現力の向上
- 傾聴と共感を基盤にした生徒指導と多様性を尊重する態度の育成
- 健康な体と粘り強さを育てる健康・体力づくりと安全指導の充実

2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
豊かな学力の育成	1 調査結果分析に基づく対策と実施	2.5	・諸調査の分析をもとに、個別最適化を図る。
	2 主体的・対話的で深い学びの実現	2.7	・主体的・対話的な学習の実現のため、思考の連続性を大切にした授業に取り組んでいる。今後は、板書やICT機器を使い、見方・考え方を可視化することで、思考力の向上に努める。
	3 GIGAスクール構想の推進	2.7	・デジタルとアナログ、それぞれのよさを生かした学習が展開できるよう、情報交換や相互参観を進める。
	4 特別支援教育の充実	2.4	・特別な支援を要する児童への手立ての模索が続いた。多くの児童が落ち着いて環境で学ぶことができるよう外部機関とも相談を進める。
	5 資質・能力を育成する家庭学習課題	3	・家庭学習の時間について共通確認を行った。家庭学習の手引きを見直しを図る。
豊かな心の育成	1 基本的生活習慣の確立	3.2	・ゲームやスマートフォンの利用により、十分な睡眠時間が確保されていない児童がいる。家庭との連携を図り、生活リズムの改善を呼びかける。
	2 Momの精神を大切にしたい人権教育の充実	2.7	・Momの精神を大切に指導を行い、よいモデルを示すことで、困ったときには、児童自ら誰かに相談できる人間関係をつくっていく。
	3 規範意識を養う積極的な生徒指導	3	・友達の気を引こうとエチケットに反した言動を行ったり、もやもやを行動や暴言でぶつけたりする児童の姿もあった。言葉を用いて気持ちを伝えるスキルを向上させる。
	4 読書に親しむ態度の育成	2.5	・読書量に個人差や学級差も見られる。まずは、定期的に図書室に行く機会を設ける。
	5 考える道徳の授業充実	2.7	・道徳の授業充実に課題を感じている職員が多かった。道徳の授業構成に関する資料等の情報を紹介していく。
健やかな心と体	1 新しい生活様式を踏まえた学校生活	3.1	・新型コロナウイルス対策(手洗いの励行、マスクの着用、手指の消毒など)に全職員で取り組むことができた。
	2 健康な体と粘り強さを育てる体力気力づくり	2	・コロナ禍において運動が不足している児童もいる。熱中症対策を講じながら、1校1運動でもある「なわとび」等、運動をする機会の確保に努める。
	3 家庭と連携した健康意識の向上	2.7	・学級PTAや学校保健委員会の場を生き、メディアとの適切な付き合い方について意識の向上を図る。
	4 安全指導の充実	3.1	・登下校中をはじめ、交通ルールやマナーを守ることに課題があった。継続的に事例を交えながら指導していく。
特色ある学校づくり	1 特色ある教育活動の推進	2.9	・5年生田植えでは、ボランティアの方々の協力のもと、計画どおり実施できた。また、学校運営協議会の働きかけもあり、持続可能な体験活動の検討を進めている。
	2 教育環境の整備充実	2.7	・落ち着いた雰囲気づくりのためにも整理整頓が課題となった。夏季休業中には、古い物や使っていない物を整理し、整然とした環境づくりを進めた。
	3 教職員の資質向上	2.8	・職員は、校内研修や校外研修に積極的に参加している。一方で、定時退庁への意識を高める必要があるとの声もあり、ワークライフバランスについて考える機会が必要である。

3 後期に向けての取組

- ICT機器を効果的に取り入れた魅力ある授業を展開し、学習中の規範意識の向上を図る。
- 児童の困り感に対し、チームで取り組める体制をつくり、対応していく。
- 持久走やなわとび等、継続的な努力を仕組み、成就感や満足感を大切にした体力づくりの充実を図る。
- 学級PTAや学校保健委員会を充実させ、インターネット機器やオンラインゲーム等との付き合い方について学校と家庭が連携して取組を進める。
- 学校運営協議会や学校支援ボランティアコーディネータとの連携を図り、地域の教育資源の積極的活用を図る。